

九州大学広報資料（馬奈木委員提供）

- ・ 「世界環境の日」ホスト国のSDGs「新国富（IW）」報告書を出版
- ・ グローバルな開発目標達成のために－気候変動と生物多様性保全対策による初の共同報告書を発行－

NEWS

[トップページ](#) > [NEWS](#) > [トピックス](#) > 「世界環境の日」ホスト国のSDGs「新国富(IW)」報告書を出版

「世界環境の日」ホスト国のSDGs「新国富(IW)」報告書を出版

トピックス

公開日：2021.06.08

1972年6月5日からストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念し、国連では6月5日を「世界環境の日」と定めています。この日に合わせ、今回世界環境の日のホスト国であるパキスタンがSDGs報告書「パキスタンの新国富：自然資本と再生への投資（Inclusive Wealth of Pakistan: The Case for Investing in Natural Capital and Restoration）」を発表しました。これは都市研究センター長、馬奈木俊介 主幹教授が代表執筆したもので、同センターが研究を進めている「新国富指標」を活用し、パキスタンの自然資本はじめ、富の価値を分析・評価しています。「新国富指標」はSDGsに関する取組を総合的に評価する方法として国連環境計画（UNEP）が推進しており、この報告書はUNEPおよび九州大学発の報告書でもあります。



トピックス

年別

2021年
2020年
2019年
2018年
2017年
2016年
2015年
2014年
2013年
2012年
2011年
2010年
2009年
2008年
2007年
2006年
2005年
2004年
2003年

パキスタンの新国富は過去10年間に、年平均2.3%増加しています。人的資本、人工資本は増加していますが、自然資本が約0.1%減少しています。この減少を受けて、パキスタン政府により2019年から始まった「100億本の木の津波計画（Ten Billion Tree Tsunami Programme : TBTP）」での森林再生によって、自然資源が増加する予定です。同時にコミュニティの参加や雇用創出も期待されています。

この報告書では、包括的な富が持続的に成長し続けるために、再生可能な資源と再生不可能な資源、さらには土壌の質や水の利用可能性など、目に見えない生態系サービスを包括的に考慮した投資を行うことを議論しています。

出版先：[United Nations Environment Programme \(2021\). Inclusive Wealth of Pakistan: The case for investing in natural capital and restoration. Nairobi.](#)

NEWS

[トップページ](#) > [NEWS](#) > [トピックス](#) > グローバルな開発目標達成のために

グローバルな開発目標達成のために

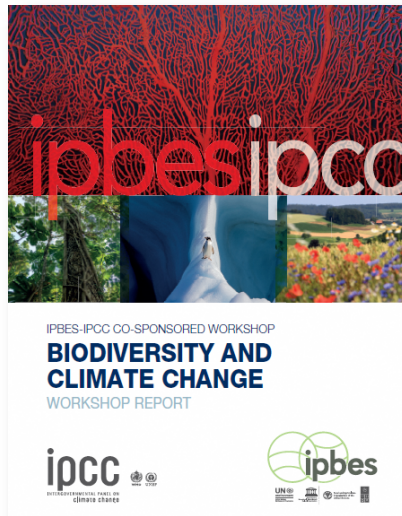
気候変動と生物多様性保全対策による初の共同報告書を発行

トピックス

公開日：2021.06.15

2021年6月10日(木)、「生物多様性と生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム (IPBES)」と「気候変動に関する政府間パネル (IPCC)」が初めて共同報告書を発行しました。その最終章「気候-生物多様性-社会の連携による解決策 (Solutions at the climate-biodiversity-society nexus)」では、本学都市研究センター長、馬奈木俊介 主幹教授 (工学研究院教授) が総括代表の1人として執筆しました。

生物多様性の損失と気候変動は、どちらも人間の経済活動によって引き起こされ、相互に強く影響しています。本報告書では、気候変動対策が直接・間接に自然へ影響を及ぼし、その逆も起こり得ることを示し、生物多様性の損失と気候変動への対策は、それぞれではなく共に行うことが、利益を最大化しグローバルな開発目標を達成すると提言しています。



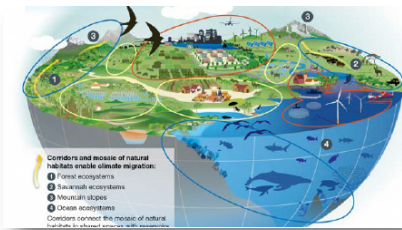
トピックス

年別

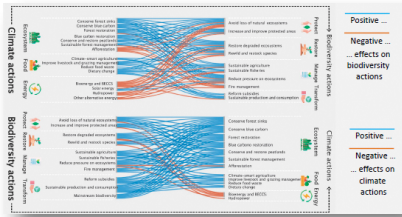
- 2021年
- 2020年
- 2019年
- 2018年
- 2017年
- 2016年
- 2015年
- 2014年
- 2013年
- 2012年
- 2011年
- 2010年
- 2009年
- 2008年
- 2007年
- 2006年
- 2005年
- 2004年
- 2003年

[IPBES IPCC 共同報告書 資料から](#)

気候変動と生物多様性保全対策は、気候、生物多様性、人間社会の大きなシステムとして扱うことが成功の鍵となります。成功するためには、保全活動と気候変動対策について、国境を越え



て、都市も農村も共に取り組まなくてはなりません。この活動が人々のニーズにも配慮したものであれば、気候や生物多様性の保全だけでなく、人間にとっても有益なものになります。



自然は、様々な人間活動からの排出量を削減する強い解決策を提供しています。

IPBES-IPCC Biodiversity and Climate Change 共同報告書

[一覧に戻る](#)

九州大学 Kyushu University
〒819-0395 福岡市西区元岡744
[お問い合わせ](#) | [アクセス](#)

[採用情報](#)

[資料請求](#)

[サイトポリシー](#)

[サイトマップ](#)

[学部・大学院等](#)

[入試・入学](#)

[研究・産学官連携](#)

[教育・学生支援](#)

[国際交流・留学](#)

[ニュース](#)

[イベント](#)

[九州大学について](#)